

2022年
ご復活号

カトリック笹丘教会ニュース

No.0104



命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7:14)



新しい創造



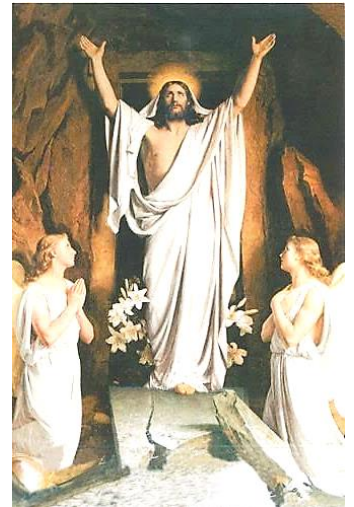
ペトロ・フランシスコ
主任司祭 遠山満

皆さん、主の御復活、おめでとうございます。

今、私は、ロシアのウクライナ侵攻が止まない状況の中で、この巻頭言をしたためております。教会ニュースが発刊される頃には、停戦状態になっている事を願いながら、パソコンへ入力をしております。

最近の私達の心の状況は、どのようなものでしょうか。私は、毎日のニュースを見るのが嫌になっています。毎日、ウクライナに侵攻し続けるロシアの暴力行為と、それに伴い、破壊されていくウクライナの町々と殺されていくウクライナの人々の映像が流されているからです。見るに堪えられないのです。かといってウクライナの現実に目を背ける事も出来ません。何故なら、マザーテレサがおっしゃったように、無関心は愛の対極だからです。それでは、私達は、どのようにすれば良いのでしょうか。ウクライナの現状を見て、心の中に湧き上がってくる、悲しみと怒りの感情を、どのようにすれば良いのでしょうか。

悲しみは、私達を絶望へと導きます。それは、神を信じても無駄だと言う囁きと共に、私達を襲います。怒りは、憎悪の感情、続いて自己嫌悪を引き起こし、最終的に私達を愛の不能へと導きます。つまり、私達は、誰をも愛せなくなるのです。この誘惑は、イエス様が、十字架上で受けられた誘惑です。ルカ福音書にその事が記されています。イエス様は、この誘惑に打ち勝たれました。十字架に掛けられていたイエス様を、多くの人が侮辱しました。その時、「侮辱している奴らを憎め」と誘惑してきたサタンに対して、イエス様は、「父よ、彼らをお赦し下さい。自分が何をしているのか知らないのです」と、侮辱してくる人達の赦しの為に祈られました。もう一つ、「神を信じても無駄だ」と誘惑してきたサタンに、「父よ、私の霊を御手に委ねます」と叫び、父なる神に対する全幅の信頼の表明をして亡くなられました。そして、復活し、サタンに勝利されたのです。



パウロは、コリントの信徒への手紙の中で、「キリストと結ばれる人は誰でも、新しく創造された者なのです」と言っております。現在の混沌とした状況の中で、この言葉は、私達の道標です。私達の置かれた環境が混沌としていくと、私達の心も、私達の生活も混沌としていきそうです。心が憎悪や絶望、或いは無関心に支配され、生活も自己中心的になったり、無秩序に陥ったりしそうです。そのような時、パウロのこの言葉を思い出しましょう。私達一人一人が、キリストに向き直り、キリストに結ばれますように。混沌とした状況の中でも、イエス様は、私達の心を癒し、赦しを与え、私達が自らの生活に秩序を取り戻せるように助けて下さいます。神様は、私達を創造された時、私達を祝福して「良し」と言われました。この世界に、その初めの祝福が取り戻せるように祈って参りましょう。



みたる
遠山 満 神父様 祝 25 周年

司祭叙階 1997年4月26日

おめでとうございます！！



よきすすめの聖母の祝日



葛西カトリック教会

懐かしの荘厳誓願式

葛西教会にて 1995年 3月



イエズス会の神学院の聖堂にて

同じ頃、神学を学んだ友人たちの初ミサに助祭として奉仕させてもらっている場面



アウグスチノ会の中に同じ頃、同じクラスを取っていた仲間はいませんでした。

イエズス会には、そのような仲間がいて、彼らが、彼らの初ミサに招いてくれました。温かく迎えてもらったことを今でも鮮明に憶えています。

中央はレンゾ神父様。私はその左横。→

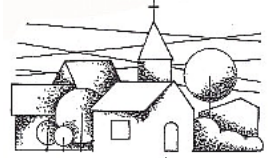




友泉亭にて

ボンジュラスから帰国して、その後1988年にアウグスチノ会に入会しました。

1988年4月から5月にかけて、東京の志願院に移る前、2か月ほど笹丘で過ごしました。その時の写真です。



修道会に入ってから、アメリカに行った時の写真です。右からドワイヤ神父様、赤倉神父様、私です。



神学生時代に小旅行をした時の写真です。左から平野神父様、柴田神父様、私です。

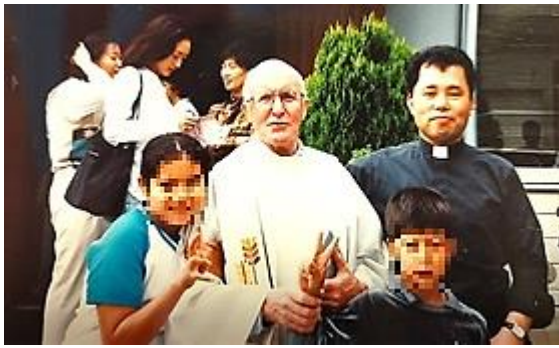


遠山満神父様、司祭叙階銀祝のお祝いおめでとうございます。御国のため、私たち信徒の霊的向上のために祈り、ひたむきに奉仕されるお姿はいつも尊敬しております。近年チャレンジされている子供に信仰を優しく易しく語られるお説教はご努力の賜物と感謝いたします。 ペトロ

僕は8歳の初聖体以来、神父様には11年間侍者として大変お世話になりました。時には他の侍者に内緒で頂いた、残り数少ない手作りケーキの味もよく覚えています。

神父様の福音宣教が、これからたくさんの人々に届きますように。 パウロ (19歳)

遠山神父様の叙階25周年心からお祝い申し上げます。 思えば14年前、新しい教会建設のために信徒全員力を合わせて頑張っていた頃、当時の主任ドワイヤ神父様をお助けするためにやってきて下さったのでした。聖堂内に納骨室を作るために奔走なさったり、目に見えないところでのご苦勞も多々あったように聞いております。これからも健康に留意され、神様のため教会のために働くことができますようお祈り申し上げます。 セシリア



アウグスチノ会が司牧する東京の葛西教会にて

マホニ神父様が主任、私が助任司祭でした。葛西教会には滞日外国人信徒とその子女の数が多く、写真に写っているこどもたちも、そうです。



ハレルヤ！！



神父様、司祭叙階 25 周年おめでとうございます。私たちの霊的糧のために一年 365 日毎日ごミサを捧げてくださり、早朝から一日中、時には夜中まで働いていらっしゃる、心から感謝申し上げます。神父様の上に神様の平和と喜びをお祈りいたします。 M・S

14 年前、笹丘教会に着任された時、我が子も含めた当時の中高生や青年たちと旧幼稚園ホールでバレーボールをされたこと、神父様覚えていらっしゃるでしょうか？若い人たちとコミュニケーションをとられている姿がとても印象的でした。いつも、ちょっと恥ずかしそうに子供たちに話をされる神父様。これからも神父様の健康が守られますようにお祈り申し上げます。

マリア・エリザベト

叙階 25 周年記念に際し、お祝い申し上げます。人として喜怒哀楽を感じながら歩んでこられた司祭としての今までの道のりを、感謝の内に振り返っておられることと思います。この先の道のりも、主を近くに感じながら、感謝の内に歩み続けていくことができますようお祈り申し上げます。

ペトロ

信仰のルーツ

24 班 ミカエル

私は幼児洗礼で育ちました。未熟児で生まれたため、医師からは余命1年も無いと言われてたそうです。心配した母が病院に神父様を呼び、保育器内で洗礼を授けて頂きました。洗礼を授かってからは、体調は安定していき保育器から出られるまでになりました。

そして21歳を迎え今日まで生きる事ができました。信仰を持ち続ければ必ず道は開けるのだと思います。神様のこれまでの導きに感謝しながら、日々過ごしていきたいと思いません。

「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないわたしは思います。神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています」(ローマ8:18, 28)



～聖人紹介～



ファウスティナ・コヴァルスカ【1905年-1938年】

ポーランドの聖女。1931年2月22日の夜、シスターファウスティナはプウォックの修道院の自室で白い長衣を着た主イエスを見た。胸元のあたりの開いたところから、赤と青白い二本の大きな光が流れていた。そしてイエスはこう言われた。「あなたが今見ているままに絵を描き、その下に“イエスよ、あなたに信頼します”と書き入れなさい。私はこの絵が、まずあなたの聖堂で、そして全世界で崇められることを望む。この絵を崇敬する人は決して滅びないと約束する」

ファウスティナがご絵の光の意味について尋ねた時、イエスはこう答えられた。「この二つの光は血と水を意味する。青白い光は靈魂を義とする水、赤い光は靈魂の生命である血を意味する。この二つの光は、私の苦しみ悶えていた心が十字架上で槍によって開かれた時、私のいつくしみの心臓から流れ出た。この避難所に住む者は幸いである。神のみ手が、彼らの靈魂を守るからだ」

イエスはファウスティナに復活祭後の最初の日曜日を神のいつくしみの祭日となることを望まれた。「この日、私のいつくしみの深みが開かれている。私のいつくしみの泉に近づく人の上に、私はあふれるほどの恵みを注ぐ。赦しの秘跡を受け、聖体拝領する人は、とがと罰を完全に赦される。罪が深紅色のようであっても、私の元に近づくのを誰をも恐れないように」

ファウスティナは、イエスの要求に応え自らいつくしみの精神を生き、特に罪びとの回心の為に多くの祈りと犠牲を捧げた。—「私の使命は、死と共に終わるのではなく、死と共に始まるのだと確信しています」(ファウスティナの日記より)— 2000年4月30日、同じポーランド出身の教皇ヨハネ・パウロ二世によって「いつくしみの主日」に列聖された。





キリストの家族

10 班 クララ

笹丘教会に転入してからもう半年以上が過ぎました。改めて私たち家族の自己紹介をさせていただきます。

私は久留米市出身、夫のフランシスコは小郡市出身です。2008年に夫の就職で熊本市に移り、約10年間手取教会で信仰を育みました。そして2020年4月に転職のため夫だけ先に福岡へ引っ越し、私と子供たちは1年遅れて昨年春に転居しました。

サッカーと釣りが好きな長男ペトロは長尾中学校の2年生、絵を描くこととお喋りが大好きな長女フランチェスカは堤小学校の3年生、まだまだ甘えん坊の次女グラツィアは大濠聖母幼稚園の年中です。3人ともまさに教会育ちと言っても過言ではないくらい、手取教会で櫻井神父様をはじめ沢山の信者さん方の優しさに触れて育ちました。私も小学1年生の時から毎週侍者を務め、日曜学校や教会キャンプにも楽しんで参加してきました。私も日曜学校のリーダーとして、子供達のお世話をしてきました。教会へ行けば誰かに会える、教会は自分の家同然という感じで過ごした10年でした。



今は家族全員信者ですが、私たち夫婦はカトリック家庭の出身ではありません。私は子供の頃に、アメリカ人宣教師の方が開いていた久留米聖書教会の英会話教室がきっかけでキリスト教に出会いました。毎週一人でバスに乗って日曜学校へ通い、聖句を暗唱したり子供の讃美歌を歌っていたことは懐かしい思い出です。高校は久留米信愛へ行ったためカトリックを学ぶことになりましたが、その後30歳を過ぎるまでは教会とは無縁の生活を送っていました。そんな私をある人の一言が大きく変えてくれました。プロテスタントのその方は、偶然にも私をキリスト教に最初に導いてくれた久留米聖書教会のアメリカ人宣教師の方と知り合いました。私が子供の頃にその教会の日曜学校へ行っていたことを話すと、彼女はストレートにこう聞いてきました。

「それで、あなたは今、神様のことをどう思っているの？」

その一言で、私はそれまでずっと心の中にもやもやしていたものがあったのに、知らんふりをして過ごしてきたことに気づかされました。



居ても立ってもいられなくなった私は、私のことを子供の頃から知っている久留米教会の方に抱えていた思いを打ち明けました。そして私の代母になってくださったその方が、当時小郡教会におられたオカロール神父様に繋いでくださり、神父様の紹介で武蔵丘教会のキリスト教講座に入れていただきました。

その後しばらくして、より自宅に近い手取教会へ移って勉強を続け、を妊娠中だった2013年にと二人で洗礼を受けました。



2021年8月 さんの洗礼式
櫻井神父様と  at 手取教会

当時夫からは「信仰は個人の自由だから、教会へ行くのも洗礼を受けるのも構わない。だけど自分たちだけで行ってね。誘わないでね」と固く言われていました。そのため特に家庭内で夫に向けて宣教したつもりもなく、むしろ強要してしまわないように気を遣っていたつもりでしたが、私たちに
は到底理解し得ない神様の働きによって、夫は今年の夏に洗礼の恵みをいただくことができました。家族全員で食卓について食前の祈りを唱えている時や、聖堂で夫と隣同士座ってミサに与っている時など、未だに夢を見ているような気がします。夫と子供と一緒にミサに与り、息子は祭壇で侍者をしている。これほど幸せなことがあるだろうか。ここまで私たち家族を導いてくださった神様と櫻井神父様、そして教会の仲間には感謝してもしきれません。

そしてこれからはここ笹丘教会で、これまで熊本で受けてきた恩を返していく番だと感じています。先日夫が「我が家は pay

forward の精神で行きたいね」と子供たちに話してくれました。自分たちが受けた恩をまた違う誰かに渡す。そんな風に、自分たちのことばかりではなく、常に周りにも目を向けて生きていけるようになることが、私たち家族の目標です。そして今度は笹丘教会を“私たちの家”と呼べるよう、皆様方と少しずつ絆を深めていきたいと思っています。

まだまだ信仰の浅い私たちですが、皆様どうぞ宜しくお願いいたします。





ありがとうございました！！ 洪（ホン）神学生

昨年 2021 年 4 月より 2022 年 1 月までの司牧実習

洪神学生のご健康と、さらなる多方面でのご活躍をお祈りいたします。

笹丘教会の皆様へ

ボナベントウラ 洪 燦基

日増しに暖かくなってまいりました。いかがお過ごしでしょうか。

笹丘教会を初めて訪ねた日はツツジが満開で、日当たりもすごく良かったです。教会の美しい風景を目にしながら、なぜかその日は少し緊張していました。

新しい出会いが苦手な自分の性格を残念に思いながら、教会の境内をうろうろしていたところ、いつの間にかヒルデン神父様がわたしの隣に立っていました。そして、「さあ、写真撮りましょう」と声をかけてくださいました。わたしが「えー、何の写真ですか」と尋ねると、神父様は「初めての日の記念写真です」と言ってくださいました。それで、ヒルデン神父様と一緒に写真を撮りました。その日、神学院へ帰る道で考えました。「今年の実習はうまくやっていたかも」と。その日からあっという間に一年が経ちました。

振り返ってみると、実習のたびに笹丘教会の独特な雰囲気を感じるようになりました。それは、皆があまり焦らないことです。何があっても着々と仕事が進んでいくように感じました。また、聖堂の天井のステンドグラスの模様がマリア様のマントを表していることも印象深かったです。その笹丘教会の雰囲気から影響を受けたのか、実習後神学院へ帰るときは、いつも落ち着いた気分でした。そのため神学院祭、テスト、選任式などの準備も着々と進めることができました。実習の間、暖かい心で受け入れてくださった遠山満神父様、マイケル・ヒルデン神父様、また信者の皆様に心からの感謝を申し上げます。笹丘教会の皆様、一年間、本当にお世話になりました。皆様のご家庭に主の平和がいつも満ちあふれますようにとお祈りいたします。



最後になりますが、今年 3 月 19 日神様の恵みと皆様のお祈りにより長崎大司教区の祭壇奉仕者に選任されました。神様の導きのうちにキリストの奉仕者として成長できますようこれからもお祈りを願います。

異動・秘跡 (2022 年 1 月～3 月)

転入 3 月 (11 班)
..... (11 班) ベルナデッタ (23 班)

帰天 1 月 1 日 ペトロ (67 歳) 1 月 13 日 ビルジッタ (94 歳)

お知らせ

「こみち」の発行は、ご復活、被昇天、ご降誕の年 3 回の発行といたします。

原稿募集

自身の信仰のルーツ、体験談、旅行記、お仕事紹介、趣味、なぞなぞ、料理紹介、手作り品紹介、イラストなど分野を問わず原稿を募集しています。

原稿応募箱に入れるか、メールで まで。



※敬称略



広報委員新メンバー紹介

ようこそ笹丘教会へ



(11班) クリスチャンネーム
ジョセフ

私は、1964年(昭和39年)アメリカ合衆国ニュージャージー州(ニューヨーク市の近く)で生まれました。ニューヨーク大学で政治学と日本語を勉強し、卒業後、初めて日本に来ました。当時、大分県に住み英会話を教えながら日本語を極めました。三年後帰国し、教育業界で務めながら、フリージャーナリスト活動を始めました。

1998年に再び来日した際、佐賀市の国際交流員として同市のバルーンフェスタや姉妹都市関係の活動を支える役割を果たしました。それを経て2000年から同市の佐賀新聞社に入社し記者・コラムニスト・報道写真家となりました。地方面や文化面に所属した傍ら、ドイツなど、外国での取材経験もありました。2010年に退職してから翻訳者となり現在に至ります。

これまで計約25年日本に住んでいる間、九州全般の他、関西・中国地方の広範囲に旅行しながら日本の歴史や伝統的な文化などに触れました。特に印象的なのは、高野山と平戸です。共通するところは、海外からの信仰が日本の文化などと交わり比類のない美しさ生まれたことだと思います。

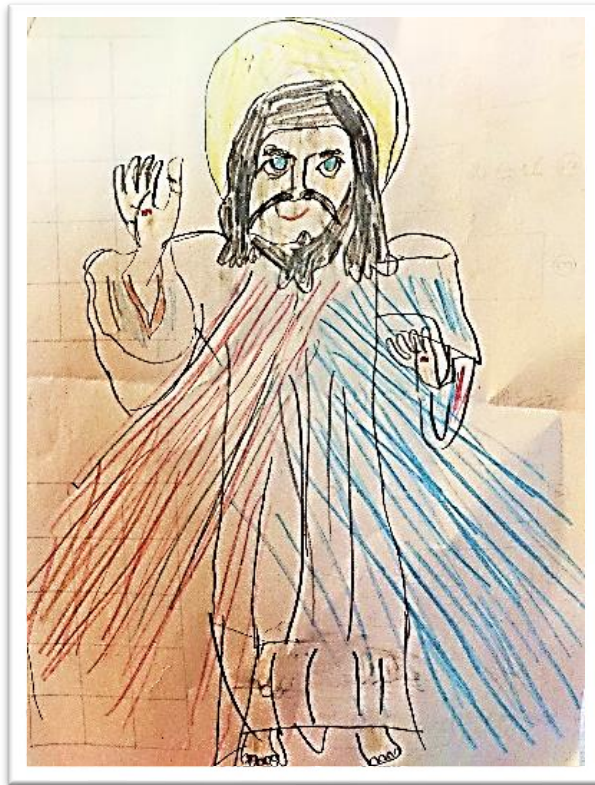
私の母方の家族がイタリア系アメリカ人(ローマ・カトリック教)なので、私は生まれてすぐ洗礼を受け、子どものころから毎週のミサや「日曜学校」に通いながらカトリック教の教えを学びました。13歳のときに堅信式があり、堅信名は「ジョセフ」を選びました。

福岡市に引っ越して近くの笹丘に教会があることを知りとても喜んでいました。まだ来たばかりですが、縁があって教会の広報のお手伝いをする事になりとても嬉しく思っています。

今後とも宜しくお願い致します。

編集後記

- ★ 新しいメンバーを迎えることができました！ 感激！ 感謝です。さらなる紙面の充実を祈って前に進みます。今年で広報委員10年になりました。(マグダレナ・マリア)
- ★ 「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻ってきて、あなた方をわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる」(ヨハネ14:3) — イエス様は、なんとやさしいのでしょうか。イエス様の御もとで安らぐその日を夢見ながら、日々神様のみ旨に従っていけますように。ご復活おめでとうございます。(マルガリタ)
- ★ 半年くらい脊椎管狭窄の症状に苦しんでいる。年取るごとに痛いところや不自由が増え、自由に歩けることも当たり前のことではないのだなあと思い知る。そして最近「爆撃に怯えることなく安心して眠れること」も当たり前のことではないのだとも——。(ソフィア)
- ★ 四旬節は、コロナ禍に加えて戦争、地震など心が痛む出来事が続き、神様はこのことを通して何を伝えたいのだろうと思わずにはいられなかった。そんな中『それでも生きる、旧約聖書「コヘレトの言葉」』を読んだ。「すべての出来事に時がある」の詩は有名だが、その最後に「戦いの時があり、平和の時がある」とある。神の時=カイロス、を信じて、私たちは明日が見えなくても今日を生きよ、と呼びかけられているのだろう。ご復活に希望を持ちつつ…。おめでとうございます！(幼きイエスのテレジア)



Jeju, Ufam Tobie
(イエスよ、あなたに信頼します)

発行：カトリック笹丘教会 広報委員会 2022年4月17日

〒810-0034 福岡市中央区笹丘1-16-1 電話:092-761-4504 fax:092-761-4524